

「みやぎ・身近な景観百選」 選定作品（名取市）



整理番号	32		
タイトル	伊達藩ゆかりの「あんどん松の夜明け」		
視点場	場所	名取市閑上字新大塚地内の東部道路名取インター北方の高架下の農道から見た閑上土手の松並から昇る日の出	
	類型	平野	季節 冬
応募者	佐藤 三男		
応募者からの推薦理由	<p>仙台市を源流とする広瀬川と名取川の2本の河川が1本の大河となり、そして閑上・深沼の大海原にそそぐ。閑上大橋西側脇土手に平均直径75センチ・高さ25～30メートルのクロマツの巨樹・古木48本が松並を形成している。この松並は、伊達城下と閑上港を結ぶ街道の一部で、伊達藩が遠州から取り寄せ植えられたものであるという。地元では漁師が閑上港への帰港の際の灯台代わりに使ったことから「あんどん松」「男松」とも呼ばれている。閑上大橋を中心として、対岸には伊達藩が力を注いだ「貞山運河」が南北に横断もしている。</p> <p>私はその松並（あんどん松）を通る度に「伊達政宗公もこの地を訪れ全国でも名高い閑上の赤貝やしじみなどの魚介類をほおぼって満足げに『美味し国・伊達な度じゃの一』ときっといってただろうな一」と思えてくる。そういうことを思い浮かべつつ、海岸線で海から昇る初日の出を拝むだけでなく、想像たくましく、あんどん松から昇る日の出を楽しむのも伊達男としておつな気分であると思って推薦する。</p>		